

2025年度 芸術科（音楽）シラバス（No. 11）

教科	芸術科（音楽）	科目	音楽Ⅱ	単位数	2	学年	3	
学科 ・ コース	普通科 幼児教育コース							
教科書	音楽2 高校生の音楽		副 教 材	MUSIC NOTE 楽典のプリント配布				
科目 の 概 要	幼児教育系の進学に向けて、また保育者になる為に必要な音楽知識・技術をしっかりと身につける。 基礎とともに、応用も含めて、音楽理論の理解や、読譜力を高める。 また、音楽の幅広い活動を通じて音楽を愛好する心情を育て、創造的な表現力を伸ばす。			評価 の 観 点	① 知識・技能の習得 楽典を理解する。 ② 思考力、判断力、表現力の育成 実技は発表形式で評価する。また練習レポートなどで練習過程も評価する。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 意欲的に歌唱、演奏などを行っているか、また練習過程のワークシートなどで評価する。			
				評価 方 法	上記の3つの評価の観点から総合的に判断して評価する。 ・定期考査 ・実技試験 ・提出物、小テストなど			
授 業 内 容	・発声練習・童謡・合唱・練習曲歌唱 ・楽典（2年生から発展させた内容） ・リズム課題 ・鑑賞（レポートなど課題あり）			学 習 方 法	まず1年生の基礎と2年生の授業内容を理解すること。 ピアノの授業と関連しているのでピアノの練習をするときも楽典の内容を意識して学習するとよい。			
				備 考				

2025年度 芸術科（音楽）シラバス（No. 12）

教科	芸術科（音楽）	科目	音楽Ⅲ	単位数	2	学年	3	
学科 ・ コース	普通科 音楽コース							
教科書	音楽Ⅲ ON!3		副 教 材	コンコーネ50番 音楽通論 プリント配布				
科目 の 概 要	音楽基礎とともに、応用も含めて、音楽理論の理解や、読譜力を高める。 また、音楽の幅広い活動を通じて、音楽を愛好する心情を育て、創造的な表現力を伸ばす。将来に役立つ音楽・ソルフェージュをより深く学び、より実践的な音楽表現及び身体表現も学習する。 定期考査を毎学期実施。また、小テストや毎時間の授業確認テスト、単元テストを適宜実施する。 実技テストにおいては発表形式での実技試験を授業内で行う。			評 価 の 観 点	① 知識・技術の習得 音楽表現するにあたり、必要な楽典の学びが習得できているか。 ② 思考力・判断力・表現力の育成 発表会形式の実技試験を通し、歌唱法が習得できているか。コールユーブンゲン等を使用し楽譜を読み解く力がつくか。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 日々の復習・予習がなされているか、確認テストや単語テスト、小テストを通じて判断する。			
				評 価 方 法	上記の3つの評価の観点から総合的に判断して評価する。 ・定期考査 ・実技試験 ・平常点、提出物、小テスト、授業態度			
授 業 内 容	1学期 ・コンコーネ・コールユーブンゲン ・楽典（コードネーム、セブンスコード、） 2学期 ・コンコーネ・コールユーブンゲン ・楽典（調判定、転回コード、鍵盤楽器を用いたコード付け（実技）、音楽史、ポピュラー音楽史） 3学期 ・楽典（3年間の総復習） ・合唱			学 習 方 法	音楽系の大学、専門学校への進路も見据えた授業展開のため、さらに専門性が増します。授業の内容を通して、個々の専門楽器の読譜力を更に高め演奏につなげてください。 1、2年次の基礎知識はしっかり身につけておきましょう。必要に応じて、補習を実施します。			
				備 考				

2025年度 芸術科（音楽）シラバス（No. 14）

教科	芸術科（音楽）	科目	（学）専攻実技		単位数	2	学年	3
学科 ・ コース	普通科 音楽コース							
教科書	なし		副教材	各専攻、楽器に合わせた教則本など				
科目の概要	各専攻実技の技術向上をめざす。経験、進度に合わせて教則本を使用し1～4名程度の少人数レッスンを大阪音楽大学施設、あるいは本校施設で展開する。				評価の観点	① 知識・技術の習得 毎回のレッスンの進捗と評価シート		
						② 思考力・判断力・表現力の育成 実技の出来栄とレポート		
授業内容	年度当初に技術レベルを確認し、教則本選定を行い、個々にあったレベルで年間20回程度のレッスンを受ける。				評価方法	③ 主体的に学習に取り組む態度 レッスンカードと平常点		
						上記の3つの評価の観点から総合的に判断して評価する。 実技試験、進捗点、評価シート、レッスンカード、平常点など		
					学習方法	毎学期、レッスン担当の先生方監修のもと、成果発表の動画提出をする。3学期には対面での発表も予定している。 毎日最低1時間を目標に練習することで、確実に上達します。		
備考								

2025年度 芸術科（音楽）シラバス（No. 15）

教科	芸術科（音楽）	科目	（学）合唱	単位数	2	学年	3	
学科 ・ コース	普通科 音楽コース							
教科書	なし		副教材	楽譜、資料など随時配布				
科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・声に必要な呼吸法を学ぶ ・ユニゾンや2声・3声のハーモニーを体験、和音のしくみを理解しながら歌う ・楽曲の構成、時代背景、歌詞を分析することで曲の理解を深める ・曲を通して伝えたいことを具体的に表現するための技術を身につける ・毎学期、実技試験を実施 ・成果発表の機会を設ける ・プログラムを考える 			評価の観点	<p>① 知識・技能の習得 取り組む曲の曲想や音楽の構造、文化的・歴史的背景などを学び、表現の多様性について理解を深める。小テスト（筆記・実技）・調べ学習 など</p> <p>② 思考・判断・表現力の育成 音や言葉・身体表現から感受したことを、自己のイメージをもってどのように表現するか考え、発表する。歌詞についてグループディスカッションの場を持ち、どのような表現方法があるかを考える。 実技テスト・鑑賞・調べ学習の発表</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ワークシート・レポート・自己評価や相互評価などの状況把握（振り返りシート）</p>			
				評価方法	<p>上記の3つの評価の観点から総合的に判断して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技試験を実施（発表会形式でも行う） ・ワークシート・レポート課題 ・平常点、提出物、授業態度 			
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・声の出るしくみ ・呼吸法、発声練習 ・楽典分析 ・歌詞の朗読 ・パート練習 ・アンサンブル練習 			学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・配布される資料などをしっかり読み込むこと。 ・楽譜は必ず製本し、必要に応じて書き込みをすること。 			
				備考				

2025年度 芸術科（音楽）シラバス（No. 16）

教科	芸術科（音楽）	科目	（学）楽典	単位数	1	学年	3
学科 ・ コース	普通科 音楽コース						
教科書	プリントデータ添付 コールユーブンゲン		副 教 材	プリント配布・データ添付			
科目 の 概 要	習熟度別授業を展開する。 音楽Ⅱ、音楽情操、よりも踏み込んだ音楽知識を習得する。 聴音・新曲視唱の技術習得をメインに展開し、受験対策も行う。 毎授業1問程度の小テスト 中間・期末ごとにコールユーブンゲン歌唱・新曲視唱・聴音も含めた授業内大テスト実施			評 価 の 観 点	① 知識・技術の習得 音楽表現するにあたり、音を聴く力・聴き分ける力を習得出来ているか。 ② 思考力・判断力・表現力の育成 初見歌唱テストを実施し楽譜を読み解く力がついているか。レポート課題。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 日々の復習・予習がなされているか、確認テストや小テストを通じて判断する。		
				評 価 方 法	上記の3つの評価の観点から総合的に判断して評価する。 ・大テスト(授業内)、小テスト(毎時間) ・新曲視唱試験 (授業内) ・平常点、提出物、小テスト、振り返りレポート、授業態度		
	・聴音（2拍子、3拍子、4拍子）調号1つまでの長調・短調 ・和声調音 ・コールユーブンゲン ・新曲視唱（C: G: F: a:） ・和声進行 ・聴音課題作曲 ・調当て			学 習 方 法	1年、2年に音楽授業で学習した内容が土台となります。読譜、記譜法の基礎をしっかりと理解した上で、この授業に臨んで下さい。		
授 業 内 容				備 考			

2025年度 芸術科（音楽）シラバス（No. 17）

教科	芸術科（音楽）	科目	（学）舞台表現		単位数	1	学年	3
学科 ・ コース	普通科 音楽コース							
教科書	なし		副教材	資料や楽譜など随時配布。				
科目の概要	<p>・演奏（特に歌唱）表現を中心とした舞台においての身体の使い方、舞台作法、身体表現方法、発音・発声方法などを学ぶ。</p>			評価観点	<p>① 知識・技能 取り組む曲の曲想や音楽の構造、文化的・歴史的背景などを学び、表現の多様性について理解を深める。小テスト（筆記・実技）・調べ学習</p> <p>② 思考・判断・表現 音や言葉・身体表現から感受したことを、自己のイメージをもってどのように表現するか考え、発表する。表現についてグループディスカッションの場を持ち、表現について客観的な視点から考える。 実技テスト・鑑賞・調べ学習の発表</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ワークシート・レポート・自己評価や相互評価などの状況把握（振り返りシート）</p>			
				評価方法	<p>上記の3つの評価の観点から総合的に判断して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成 ・実技試験（発表会形式でも行う） ・平常点、提出物、授業態度 			
				学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・配布される資料をしっかりと読み込むこと。 ・必要に応じて資料に書き込むこと ・日頃の生活から、自分自身を客観的に見つめてみる。 			
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台表現者としての心構え ・舞台上での身体の使い方、表現方法 ・発声方法 ・発音（日本語、英語、ラテン語、イタリア語、ドイツ語など） ・音楽の構造、文化的・歴史的背景などの理解を深め、表現の多様性を学ぶ。 			備考				

2025年度 芸術科（音楽）シラバス（No. 18）

教科	芸術科（音楽）	科目	（学）卒業演奏		単位数	1	学年	3
学科 ・ コース	普通科 音楽コース							
教科書	なし		副 教 材	プリント配布				
科目の概要	<p>それぞれの専攻を活かした7分程度の演奏プログラムを考え、学期に最低1回の「レインボーコンサート」に出演する。また、年度末に「卒業演奏」としてオーディション形式の発表を行う。</p> <p>演奏曲選定、テーマ立案、チラシデザイン、演出、演奏解説等も自ら考え、会場で配布できるように作成する。演奏曲についてプレゼンテーションする機会も考えている。</p>			評価の観点	<p>① 知識・技術の習得 演奏するにあたり、必要な情報収集及び演奏技術が習得出来ているか。</p> <p>② 思考力・判断力・表現力の育成 発表会形式の実技試験を通し、作曲者の意図を汲み表現できているか。また、それぞれの考えを活かした演奏表現ができているか。自分自身で企画立案したことを、ブラッシュアップして、演奏に活かす応用力が身についているか。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 日々の練習がしっかりなされているか、演奏チェック、レポート、小テストなどを通じて判断する。</p>			
					評価方法	<p>上記の3つの評価の観点から総合的に判断して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する熱意、集中力 ・演奏の完成度、演出への発想力 ・進捗状況、出席状況 ・楽曲鑑賞・楽曲研究・参考作品についての事前研究を積極的に行っているか。 		
				授業内容		<ul style="list-style-type: none"> ・演奏テーマの考え方 ・チラシデザイン（キャッチフレーズ等） ・演出（MC等） ・プログラムノート（演奏解説） ・選曲時のポイント ・演奏形態について 	学習方法	演奏プログラムの企画立案に際して、より多くの資料を事前に研究する。
備考								

2025年度 芸術科（音楽）シラバス（No. 19）

教科	芸術科（音楽）	科目	(学) ピアノ実習	単位数	2	学年	3
コース	普通科 幼児教育コース						
教科書	なし	副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ SeikeiPiano（学園共通教則本） ・ 個人のレベルに合わせた幅広い教則本（バイエル教則本、ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバム1巻、2巻、ソナタアルバム1巻、2巻など） 				
科目の概要	音楽を学ぶにあたり、必ず習得しなければならない読譜力、実技の向上、表現力を磨くことをめざす。		評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ① 知識・技術の習得 楽譜に書かれている内容をきちんと理解し、弾けているかを評価する。また、人前で弾く上でのマナーが出来ているかも評価する。 ② 思考力・判断力・表現力の育成 曲を理解し表現できているかを評価する。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 目標曲を設定し目標に達しているかを評価する。授業の振り返りレポートなどを評価する。 			
	・ 1対1での個別指導と自主練習		評価方法	上記の3つの評価の観点から総合的に判断して評価する。 ・実技試験 ・必要に応じた小テスト（リズムテスト、初見テストなど） ・学期の初めに目標を設定し達成したか。			
			学習方法	日常生活の中で必ず毎日練習時間を確保すること。 毎日30分～60分を目標に練習することが望ましい。			
授業内容			備考				